

ボクは一九歳の時、神田にある美学校という小さな私塾みたいな学校に週一回通っていた。先生は赤瀬川原平さん。その後に尾辻克彦の名前で小説を書いて芥川賞を獲ったり、『老人力』というベストセラーを出したりしたけど、その時はまだ「知る人ぞ知る」という現代芸術家であり、イラストレーターだった。

赤瀬川さんの授業で、ある日、A4のコピー用紙が配られた。そしてそこに、鉛筆で千円札を実物大で描くように、と言われた。記憶だけで。

二〇人ほどの生徒は全員、「え……」と言って絶句してしまった。

誰もが毎日のように見て、使っている千円札。それが、描こうとしたら、ちっとも思いつかない。そんなことがあるのか。

とりあえずみんな、紙に長方形を描いた。だが、大きさが、人によってかなり違う。

それから、四隅に「1000」と書いた。対角線上に二箇所だけ書いた人もいる。さらにトランプのように、その「1000」を一つ逆さまに書いた人もいる。

当時の千円札の肖像は伊藤博文だった。だけど、聖徳太子を描いた人もいた。その時点で一〇年くらい前の千円札だ。なにや



絵・江口修平

あなたはお札を どれだけ覚えていますか

久住昌之

ら軍服を着て、帽子をかぶり、長い真っ黒な顎ヒゲを生やした人物を描いた人を見た時は、吹き出しそうになった。誰だ、それは？

真ん中にどでかく「千圓」と書いて、その先は手がピタリと止まってる人もいた。

かくいうボクも、伊藤博文、というところまでは思い出せたが、顔は真っ白、ただ、鼻の横にホクロがあったような気がして、鼻とホクロだけ描いた。あと、なんかアルファベットの混じった長い数字も書いた。丸いハンコのようなものがあつた気がする。あ、透かしがあつたな。

制限時間が終わり、各々、自分の財布から千円札を出した時は教室に「あー！」と声が上がリ、次に笑いがさざ波のように起こつた。そうだったこうだった。見ればちゃんと覚えているのだ。当たり前だ。じゃなきゃ、貨幣社会は成り立たない。

ボクらはいったい、お金のどこを見ているんだろう？ 記憶ってなんだろう？ いや、お金ってなんだろう？ この授業はボクらに根本的な疑問を問いかけてきたのだった。

皆さんも試してみてはいかが？ 今すぐ。

くすみ・まさゆき●漫画家・ミュージシャン。1958年東京都生まれ。法政大学社会学部卒。99年、実弟・久住卓也氏と組んだ漫画ユニット「Q.B.B.」名義で書いた『中学生日記』で、第45回文藝春秋漫画賞受賞。97年、谷ロジロー氏と組んで書いた漫画『孤独のグルメ』は、現在イタリア他計10カ国で翻訳出版されている。2012年にTVドラマ化され、現在Season9。劇中全ての音楽の制作演奏をし、脚本を監修、最後にレポーターとしても出演。19年、絵本『大根はエライ』（福音館書店）が第24回日本絵本賞を受賞。

